岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2014.12 No.143

目次／菓子盆　桃・銀杏・菊 **表紙**／活動レポート「被災紙製資料の安定化処理と保管」**p.2-3** ／展覧会案内「漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～」**p.4-5** ／事業報告「第68回自然観察会」「第68回地質観察会」**p.6** ／事業報告「第6回博物館まつり」、解説員室より「映像室へようこそ！」**p.7** ／インフォメーション **p.8**

テーマ展　漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～

平成26年12月20日（土）～平成27年2月22日（日）

菓子盆　桃・銀杏・菊（当館蔵）

直径が17センチメートル程度の木皿を菓子盆と呼んでいます。簡素な漆絵が描かれ、ふだん使いの漆器でした。浄法寺塗では桃、銀杏、菊が代表的な絵とされています。

■活動レポート

被災紙製資料の安定化処理と保管

専門学芸調査員　川又　晋（文化財科学部門）

前号で、「仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設」（以下、施設とします）の設置についてご紹介しました。ここでは、施設１階で行われている紙製資料に対する処理について説明します。

写真１　仮設修復施設の外観

■生物学的劣化と安定化処理

津波で被災した資料は汚損や破損といったダメージを受けていますが、再生を図るうえで厄介な課題の一つに、カビへの対処があります。濡れた状態で長期間放置された資料の多くにカビが発生しており、繁殖が進むと他の資料へ被害が拡散する恐れがあります。カビにより資料にシミが沈着すると除去が難しく、文字情報の判読に支障を来たします。資料への影響のみならず、カビの種類によっては人体に深刻な健康被害を及ぼすこともあります。

カビ（真菌）や細菌といった微生物や虫など、有害生物の活動によって起こる「生物学的劣化」の進行は、生息要因である水・酸素・温度・栄養分などの条件により左右されます。劣化が急速に進む資料からその要因となるものを除去し、劣化を抑制するために施す処理のことを、「安定化処理」と呼んでいます。

■処理前資料の保管

劣化が進行するほど資料再生が困難となるため速やかに安定化処理を行うことが求められますが、被災資料の数は膨大で、一度に処理できる数量にも限界があります。処理を待つ間の腐朽の進行を食い止めるため、資料は大型冷凍庫で保管されています。

写真２　大型冷凍庫

■処理前の準備

冷凍庫で保管している資料のうち、現在のところは水洗可能と考えられる文書・書籍類だけを選別し、安定化処理を実施しています。選別した資料は処理前状況を写真撮影した後、不織布に包んで保護します。

ホチキスで綴じられてある書籍等は、金属に生じた錆が紙を汚損するため、ホチキスを外し一枚ずつ解体した状態で処理をすることがあります（最終的に糸で綴じ直します）。この場合は解体した資料と不織布を交互に重ね合わせ、洗濯用ネットに入れた状態で処理を実施します。

写真３　書籍の解体作業

■殺菌と洗浄

約400ppmの次亜塩素酸ナトリウム水溶液に資料を漬けて殺菌をします。次亜塩素酸ナトリウム水溶液には漂白作用があるため、文化財への使用の際には濃度や使用時間について十分な注意が必要ですが、水損資料を効率的に殺菌でき、細菌の繁殖で発生した悪臭も除去することができます。

洗浄作業では、水を入れたトレーに資料を入れ、刷毛や筆を用いて土砂等の汚れを少しずつ除去していきます。水分を含んだ紙は慎重に扱う必要がありますが、乾燥状態に比べ土砂が落としやすく、カビを室内に飛散させずに除去できるというメリットもあります。

作業にあたる職員は、使い捨ての白衣・帽子・手袋と防塵性の高いマスクを着用し、カビを吸い込まないよう注意して作業を行っています。

■脱塩

洗浄により目に見える土砂を除去できたとしても、資料内にはまだ海水に由来する様々な物質が残留し、そのまま乾燥すると保管の際に資料へ悪影響を及ぼす可能性があります。特に塩分（塩化ナトリウム）は、空気中の水分を吸湿することでカビの繁殖を助長し、資料を変質させる心配もあります。そこで、塩分を除去する「脱塩」が行われます。

写真４　脱塩処理（水交換作業中）

施設内では水道のシンクをそのまま脱塩用水槽として利用しています。資料を水道水に漬けると含まれていた塩分が徐々に溶出し、概ね24時間経過後に水を交換、このサイクルを約１週間繰り返して脱塩を進めます。脱塩水の塩化物イオ

ン濃度を測定すると、水交換を重ねるごとに塩分溶出量が減少していくのが分かります。資料内部からの塩分溶出がほとんど無いことが確認できた時点で、脱塩完了と判断します。

脱塩効率を高めるため、温水（40℃）の使用や、水槽内にポンプで水流を起こす方法も試みています。最終的に純水を使用した超音波洗浄で仕上げを行います。

■乾燥

資料の乾燥中に新たなカビが発生することもあり注意が必要です。書籍類の乾燥には「真空凍結乾燥機」が有効で、資料中の水分を減圧下で凍結状態のまま昇華させるため、カビの発生を心配することなく内部まで確実に乾燥させることが可能です。

濡れた紙を乾燥させると、紙の伸縮によるシワや歪みが必ず生じます。これを解消するため、プレスして紙のシワを取り除きます。一枚もの（解体済の書籍も含む）の資料については、刷毛でシワを伸ばしながら広げて乾燥させた後、板で挟みプレスしてさらに乾燥を継続します。この作業には施設内にある恒温恒湿庫を使用します。

写真５　解体した書籍の乾燥作業

■くん蒸

薬剤（当館では酸化プロピレンを使用）を気化させたガスを資料へ浸透させ殺菌・殺虫を行う方法で、本館にある「文化財滅菌装置」を使用します。資料内部まで完全に殺菌・殺虫を行うことができますが、海水を含んで濡れた資料についてはそのまま処理をすることができません（有害物質を生成する危険性が指摘されています）。脱塩と乾燥が終了した資料に対して、くん蒸を実施します。

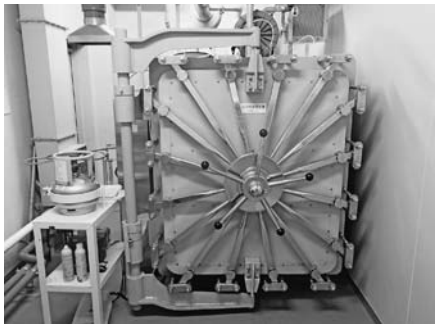

写真６　文化財滅菌装置

水洗作業で除去し切れなかった汚れがある場合、くん蒸後に再度刷毛等で仕上げのクリーニングを行います。殺菌で死滅したカビ等も、保管中に有害生物の栄養源となるため可能な限り除去します。

■修復

破れている箇所は糊で貼り合わせ、その上に修復用和紙を貼り付けて補強します。修復用和紙は資料に応じて厚さの違うものを使い分け、後の再修復が可能なよう、糊は接着後も水で剥がすことができるものを使用します。

処理前に解体した書籍は、糸で綴じ直し、表紙と本体を和紙で接着します。

写真７　書籍の糸綴じ作業

一連の作業が終了した後、再度資料の写真撮影を行います。

写真８　処理後資料の写真撮影

■処理後資料の保管

安定化処理と修復を終えた資料は、陸前高田市へ返却するまでの間、本館内の収蔵庫等で保管されます。収納には腐食性ガスを発生しない中性紙箱を使用しています。カビの発育を防ぐため、室内の相対湿度を60％以下に保持し保管しています。

安定化処理を施したからといって劣化の危険性が全く無くなった訳ではありません。保管環境へ留意しつつ、処理後の経過観察を続けていく必要があります。湿度管理とともに重要なのが衛生管理です。有害生物の侵入防止を図るとともに、栄養源となる埃を除去するため、清掃の徹底に努めています。

写真９　処理後資料の保管状況

施設内の安定化処理および抜本修復作業の様子は、開館時間中に自由に見学することができます。どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

■テーマ展

漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～

会期：平成26年12月20日（土）～平成27年２月22日（日）　会場：特別展示室

岩手県は全国一の漆の産地です。漆は主に二戸地方で生産されますが、その地元には浄法寺塗と呼ばれる漆器があり、経済産業大臣の指定する伝統的工芸品となっています。浄法寺塗には箔椀とよばれる装飾の華やかな椀やひあげ（片口）などが有名ですが、一方で地味で使い捨てられやすい漆器があります。その代表が菓子盆です。

本展は館蔵の泉山コレクションから、あまり顧みられることのなかった菓子盆にスポットをあてて、絵の分類や特徴など菓子盆の魅力を紹介します。

菓子盆とは

菓子盆は直径が17センチメートル、高さが2センチメートル程度の木皿です。薄く漆が塗られ、多くはおめでたい図柄の漆絵が描かれています。

盆は一般には物を運ぶ容器のことをいいますが、この菓子盆は銘々皿です。農家では野良仕事の時の食事に使われたといいます。したがって、多くは皿の一部が欠けていたり、漆絵が薄くはげていたりします。漆器でも、四ツ椀などは大切にされるのですが、菓子盆はふだん使いが多いですから、意外にも残っていないものです。

このような皿は全国に広く分布します。本展は浄法寺塗と思われる菓子盆を中心に展示しますが、産地の特定は難しく、一部で他産地のものがある可能性があることをお断りしておきます。

菓子盆の形

形はふたつのタイプがあります。

まず表ですが、なだらかな曲面のものと中央にへこみのあるものがあります。前者を標準仕様と考え、標準型、後者を茶托型と呼びます。浄法寺塗は標準型がほとんどです。（なお、この名称は筆者が名づけたものです。）

茶托型

碁笥底型

次に底ですが、底も二つのタイプがあります。なだらかな曲面のものを「丸底」、中央にへこみのあるものを「碁笥底」といいます。碁笥は碁石を入れるいれもので、その形に似ていることからつけられた名称です。（この二つの名称はすでに使われてきたものです。）

すると、表と底とあわせて４つの組み合わせが考えられますが、茶托型と丸底の組み合わせは館蔵品には２点しかありません。おそらく形態上から考えても少ないのではないかと思います。浄法寺塗で一番多いのが、標準型の碁笥底です。おそらく標準仕様は、標準・碁笥底型で直径18センチメートル程度（６寸か５寸５分）だったのではないかと思います。＊１寸は3.03センチメートルです。

明治時代の仕様書

このようなことをいうのは、明治時代の仕様書が見つかったからです。明治24年の『御椀寸法書』と書かれた文書のなかに、菓子盆の寸法が書かれてありました。それによると、木地は上樫と上欅、直径が５寸５分、底に３寸のへこみがあります。20枚単位で作られたようで、値段は２円でした。一般に、浄法寺では木地にはブナが使われ、欅などは使わないとされているのですが、ここでは上物のようですので、注文によっては使ったことがわかります。

浄法寺塗の菓子盆と疑いのないものに、桃の絵と銀杏の絵があります。これらはすべて、標準・碁笥底型なのです。今回、仕様書が発見され、それが裏付けられることになりました。

桃・銀杏・菊

菓子盆には漆絵が描かれています。分類の仕方にもよりますが、およそ20種類の絵があります。なかでも多いのが、桃・銀杏・菊です。これらは浄法寺塗菓子盆の特有の絵です。

桃は山桃とも呼ばれていて、ノモモのことだと思われます。園芸品種とはややことなり、ふくよかさは少なく、斑点などもみられます。そして桃の絵はひとつとして同じものがないのです。浄法寺塗では塗師が絵も描くのですが、当然雛形があり、それをまねたと思っていました。しかし、八幡平市博物館が所蔵する『真絵雛形』（出品予定）などの雛形に桃の絵はありませんでした。

銀杏も浄法寺塗特有の絵で、ふつう２枚の銀杏の葉が描かれています。これも数が多いのです。これは雛形がありました。

菊も浄法寺塗でよく使われ、特に箔椀では菊は大変重要な位置を占めていま

す。しかし、菊は古くから漆器の画題となっていて、浄法寺塗だけということはありません。浄法寺塗の菊は枝菊と呼ばれ、しなやかな枝に菊が描かれているのです。花は片切筆（なぎなた筆）を使って、一枚一枚ていねいに描かれます。これが浄法寺塗特有の菊です。これも雛形を見つけることができました。

会津か、浄法寺か

よくわからないのが富士の絵です。これは三保の松原から見た富士の絵で、三保富士（山水）と呼んでいます。これも雛形があり、浄法寺で作られたのはまちがいありません。しかし、会津塗でも富士は有名で、富士といえば会津というくらいです。その区別はできるのでしょうか。

工藤紘一著『いわて　漆の近代史』（川口工業印刷）を読むと、明治時代以降会津と交易が頻繁に行われていたことがわかります。会津から浄法寺塗産地にやってきた人の中で有名なのは鵜川粂吉です。わけあって幕末から明治33年まで40年間滞在し、浄法寺塗に改良を加えたといわれています。

こういう人は一人だけではなく、石川県からも来ています。浄法寺塗はいろいろな漆器の影響を受けていると考えられます。もし、会津の三保富士の雛形を持ってきて、浄法寺塗に影響を与えたら、これは浄法寺産でしょうか、会津産でしょうか。

かつて漆を副業にしていた家々にはこうした雛形や文書がまだまだ眠っているのではないかと思うのです。もしかしたら、それが浄法寺塗の歴史の新たな１ページを切り開くことになるかもしれません。

（主任専門学芸員　瀬川　修）

桃

銀杏

枝菊に蝶

竹に梅

三保富士

三保富士図（『真絵雛形』）
八幡平市博物館蔵

関連行事

★民俗講座（日曜講座）

平成27年１月11日（日）
午後１時30分から３時　講堂　無料
「木皿について」
講師：新海　洸 氏
（東京学芸大学名誉教授）

★展示解説会

・１月11日（日）
午前11時から12時
・２月14日（土）
午後２時30分から３時30分

特別展示室。いずれも入館料が必要です。＊時間が異なりますので、ご注意ください。

■事業報告

第68回自然観察会「シカに食べられる森」

開催日　平成26年９月27日（土）

これまで当館の自然観察会は、美しい自然の風景や珍しい生き物などを見て楽しみながら、生物の多様性や自然環境の大切さを学ぶという目的で実施してきましたが、今回の観察会は少し変わった趣向で行いました。

平成21年度の企画展「野生動物と生きる」でも紹介したとおり、1970年代から日本各地でニホンジカの個体数が急増し、大問題となっています。増えすぎたシカが生息地の植物を食べ尽くし、生態系に甚大な影響を与えているからです。

岩手県でも近年は五葉山周辺のみならず、遠野市や宮古市などで農業や自然植生への影響が大きくなっており、対策は急務です。しかし多くの方はその実態をまだ知りません。そこで、実際にシカに食べられ荒れてしまった森の姿を見る機会を作ろうと、観察会を企画しました。

間違いなく悲しい気分になるはずの観察会に参加者が集まるだろうかと心配しましたが、定員を超えるお申し込みを頂き、関心の高さを感じました。

観察地には住田町を選び、荒れた森を見るだけでは悲しすぎると考え、滝観洞の見学を組み込みました。かなり狭い場所もある洞窟でしたが、住田町観光協会の方の案内をいただき、ヘルメットをかぶっての探検を楽しむことができました。

観察した森は２ヶ所で、一つは低木や草が消えて土壌流出が起きている箱根沢の森、もう一つはシカの嫌いな植物ばかりが多く残っている小繋沢の森でした。短時間の滞在でしたが、虫の姿も鳥の声も消えてしまった空っぽの森を見て、シカの影響の深刻さが理解できたという感想を多くいただきました。また沿道の田畑を囲む電気柵や高く張られた網の様子から、農業被害の大きさも感じることができました。

今後も、シカ対策の重要性を知っていただく機会を作りたいと考えています。

（専門学芸員　鈴木まほろ）

シカに食べられた箱根沢の森

■事業報告

第68回地質観察会「ペルム紀の陸前高田市の海の生物を観る」

開催日　平成26年10月５日（日）

岩手県の陸前高田市矢作町から宮城県気仙沼市上八瀬・上鹿折には、古生代ペルム紀の地層（ペルム系と言います）が広く分布しています。ペルム紀は約３億～２億５千万年前にあたる時代で、この時代末期の生物の大量絶滅で三葉虫など多くの動物が地球上から姿を消しました。

今回、観察会を行った陸前高田市矢作町飯森には、明治時代からペルム系化石産地として有名な露頭が存在します。今回の地質観察会では、長年この地域で調査研究をされてきた永広昌之先生（東北大学総合学術博物館協力研究員；写真右上）に講師をお願いしました。全員で林道を30分以上歩き、ようやく露頭に到着しました。現地では取りきれないほどたくさんの化石が転がっており、参加者は永広先生のお話を伺いながら熱心に化石を採集しました（写真左下）。参加者からは珍しい化石が出る度に歓声があがり、各々ペルム紀当時にこれらの生物が生きていた海を想像したことと思います。

化石採集を行う参加者

岩手県にはこのように様々な化石を観ることができる場所がたくさんあります。今後も野外に出て、実物の地層や化石に触れることで岩手の自然を理解する機会を提供できればと考えております。

露頭で解説をされる永広先生

最後になりますが、当観察会の準備・運営に多大な御協力をいただきました、陸前高田市立博物館と三陸ジオパーク推進協議会の職員及び近隣住民の方々に心よりお礼申し上げます。

（学芸員　望月貴史）

■事業報告

第6回博物館まつり

開催日　平成26年９月23日（火）秋分の日

第６回博物館まつりは、５年ぶりに秋分の日の開催となりました。遠くは秋田県など他県、東京からのお客様も見え、多くの来場者でにぎわいました。

カラフルな「化石のレプリカづくり」や「まが玉づくり」など毎年好評のコーナーは勿論、「缶バッジづくり」では新作バッジが登場し人気を集めました。

「大人も楽しめる博物館まつりを」と今年度から企画された「たんけん！植物園・岩石園」は、特に午後から賑わい、参加した多くの方から「一番面白かった」との声を頂きました。

体験プログラムの中でも子どもたちの反響が大きかったのは、岩手県立博物館自慢の民家で行われた「昔あそび」コーナーです。このコーナーは博物館友の会のボランティアの協力で毎年開かれています。会場の南部曲屋は満員状態。「割り箸鉄砲づくり」や「イタドリ笛」、「折り紙」、「ぬり絵」などに親しみました。

正午からは歌手の臼澤みさきさんの野外ミニコンサートが行われました。芝生広場を取り囲む博物館前のレンガの広い階段を大勢の人が埋め、デビュー曲の歌詞にぴったりの青空の下、歌声に聞き入りました。わんこきょうだいのとふっち、こくっちとコラボレーションしての「国体音頭」から始まり、さんさ踊りが躍動する「さんさ里歌」など、大いに盛り上がりました。

台風が心配されましたが、好天に恵まれ、大学生を始め45名のボランティアの協力で無事に終えることができました。皆様ありがとうございます。

より一層よい事業にしたいと思いますので、来場することができなかった皆様も来年のお越しをお待ちしております。

（学芸第三課　笠原雅史）

■解説員室より

映像室へようこそ！

２階展示室の奥に、『映像室』があります。プロジェクターとブルーレイ対応のプレイヤーを備えた、70名様収容の映像視聴室です。９月に映像機器を新調し、より美しい映像と、迫力のサウンドをお楽しみいただけるようになりました。

この映像室は、通常、学校団体や、子供会、一般の来館者様に、映像視聴目的でご利用いただく機会が多いのですが、トークショーや解説会などでも利用があります。

夏休みなどには、自由研究の学習に、映像を見ながら真剣にメモをとる小学生の姿もあります。週末には、自然系のプログラムをご家族で鑑賞されたり、民俗芸能のプログラムをゆっくりと楽しんだり・・・小さなお子様には、アニメ作品が人気です。

視聴リクエストの40％を占めるほどの人気のプログラムは、『恐竜大進撃』（36分）です。子供達の大好きな恐竜の誕生から絶滅までを、スーパーサウルスが紹介します。恐竜が生きていたころの世界を再現していますが、映像室の大画面で見ると迫力が増すようで、映像室からは歓声が聞こえてきます。

入館時に館内パンフレットと一緒に、映像プログラムをお渡ししています。１～14番は大人向け、15～36番は子ども向けのプログラムです。このなかから、お客様のお時間やご希望に合わせて見たいプログラムを選択できます。

館内のご見学と組み合わせていただきますと、展示の内容にも、より関心を深めていただけることと思います。

映像室をご利用される場合は、視聴したいプログラムの番号を、お気軽に解説員にお申し付けください。視聴予約も出来ます。

皆様に楽しんでいただけますよう、これからも映像室の充実を図って参ります。

お気軽に映像室をご利用ください。

（解説員　小田嶋麻記子）

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈2014.12.1～2015.3.31〉

おしらせ

●年末年始休館
年末年始は12月29日(月)から1月3日(土)まで休館します。

展覧会

■テーマ展「漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～」
12月20日(土)～平成27年2月22日(日)　特別展示室
浄法寺塗の菓子盆はふだん使いの簡素な漆器ですが、漆絵にはさまざまな種類があり、独特の魅力があります。
■**展示解説会**　特別展示室　要入館料
1月11日(日) 11：00～12：00、2月14日(土) 14：30～15：30
■**民俗講座兼県博日曜講座**　講堂　当日受付　聴講無料
1月11日(日) 13：30～15：00
「木皿について」講師：新海 洸氏（東京学芸大学名誉教授）

■テーマ展「クマゲラの世界～未知なる生態に迫る～」
平成27年3月14日(土)～5月31日(日)　特別展示室
クマゲラの知られざる生態や生態系に果たす役割、日本における分布や現状等を詳しく紹介するほか、本州でのクマゲラ研究小史にもふれ、来館者をクマゲラの世界にいざないます。
■**展示解説会**　特別展示室　要入館料
3月15日(日) 14：30～15：30
アマチュアカメラマンの井上大介氏をゲストに迎えて
5月3日(日) 14：30～15：30
展覧会担当者が全般解説
■**セミナー兼日曜講座**　講堂　当日受付　聴講無料
3月22日(日) 13：30～15：30
対談講演会「日本産クマゲラの生態とその保護」
講師：有澤　浩氏（元東京大学農学部附属北海道演習林助手）
船木信一氏（秋田県立博物館主任学芸主事）
藤井忠志（当館学芸部長）
4月26日(日) 13：30～15：00
「クマゲラ研究小史」講師：藤井忠志（当館学芸部長）

冬期文化講演会

2月5日(木)　13：30～15：00　講堂　当日受付　聴講無料
「世界遺産の現状と取り組み」
講師：西　和彦氏（文化庁文化財部記念物課世界文化遺産室文化財調査官）

県博日曜講座

第2・第4日曜日　13：30～15：00　当日受付　聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
12月14日「砂鉄の中の鉱物」吉田　充（当館学芸第二課長）
12月28日「三陸の貝塚」八木勝枝（当館学芸員）
＊1月11日　テーマ展「漆絵のデザイン」関連講座
1月25日「読み比べ田山暦・盛岡暦～南部絵暦入門～」
瀬川　修（当館学芸員）
2月8日「太平洋からみた古代・中世の陸奥国の歴史」
目時和哉氏（盛岡第一高等学校教諭）
2月22日「被災紙製資料の安定化処理と保管について」
川又　晋（当館学芸員）
3月8日「動物の「行動の化石」」望月貴史（当館学芸員）
＊3月22日　13:30～15:30　テーマ展「クマゲラの世界」関連講座

冬休みワクワク！ワークショップ

1月9日(金)・10日(土)　実技室　当日受付　参加無料
受付時間　①10：00～11：30　②13：15～14：45　随時
幼児（要保護者付き添い）～小学生対象　各プログラム1日70名
「化石のレプリカづくり」「恐竜ぬりえカレンダー」のどちらかひとつを選んで工作できます（所要時間 約40分）。

冬の写生会

写生会　12月13日(土)～1月12日(月・祝)　幼児・児童対象
展示会　1月24日(土)～2月15日(日)　ミニプラザ
冬休みに博物館で岩手山やマメンキサウルスなどをお絵かきしませんか。受付で画用紙と応募用紙をお渡しします。絵を描く道具はご持参ください。参加作品は館内に展示します。

週末の催し

◆ミュージアムシアター
毎月第1土曜日 13：30～15：00　講堂　当日受付　視聴無料
12月は子供向け、2月・3月は一般向けの作品を上映します。
12月6日　アニメシアター　幼児～小学生向け
ポウさんの雪だるま（8分）、ミッキーマウスの楽しい冬・ミッキーマウスとゆかいな仲間たち（各10分）、森のトントたち クリスマス・クリスマス（25分）、十二支のはじまり（10分）、年神様とお正月（10分）
（1月　休館日のためお休み）
2月7日　昭和の岩手特集Ⅰ　一般向け
むかしの暮らし〈金ヶ崎町〉(再現ドラマ／35分)
県政映画いわて（昭和36年度、37年度、39年度、41年度）
3月7日　昭和の岩手特集Ⅱ　一般向け
自分たちで生命を守った村〈沢内村〉(実録／30分)
県政映画いわて（昭和35年度、36年度、39年度、41年度、42年度）

◆チャレンジ！はくぶつかん
毎月第2・第3土曜、日曜、祝日　小学生向け　随時受付
チャレンジ！マークをさがして はくぶつかんをたんけん！
12月13日・14日・20日・21日　テーマ：走る
1月10日・11日・12日・17日・18日　テーマ：デザイン
2月14日・15日・21日・22日　テーマ：木
3月14日・15日・21日・22日　テーマ：鳥

◆たいけん教室～みんなでためそう～（予約制）
毎週日曜日　13：00～14：30　幼児・小学生20名程度　参加無料
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間（9:30～16:30、休館日を除く）に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。

12月	7日　松ぼっくりのXmasツリー 14日　いいさかまき先生のごんげんさまのカスタネット	21日　かんたん門松づくり 28日　まゆで干支(未)づくり
1月	4日　まゆで干支(未)づくり 11日　みずきだんご	18日　たこづくり 25日　ほかほかカイロづくり
2月	1日　化石のレプリカづくり 8日　ガラスの万華鏡	15日　こはくの玉づくり 22日　はまぐりのおひなさま
3月	1日　まが玉アクセサリー 8日　スライムであそぼう 15日　ばねのキツツキおもちゃ	22日　石のオリジナルはんこ 29日　板がえし

定時解説

平日～土曜日 13:30～14:30　日曜 10:30～11:30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご希望におこたえしています。

利用のご案内

■開館時間　9:30～16:30(入館は16:00まで)
■休 館 日　月曜日（月曜が休日の場合は開館、翌平日休館）
年末年始　(12月29日～1月3日)
■入 館 料　一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより
第143号
平成26年12月1日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102　盛岡市上田字松屋敷34
Tel.(019)661-2831 / Fax.(019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023　盛岡市内丸13-1
Tel.(019)654-2235 / Fax.(019)625-3595